

## C-Ⅱ -46 敗血症性 ARDS に対して血液浄化療法を施行した 2 症例

東海大学医学部付属八王子病院・血液浄化センター

藤井誠二

### 【はじめに】

一般に敗血症性ショックとは、感染によって引き起こされた高サイトカイン血症が引き金となり、ARDS などの臓器不全を発症するといわれている。今回、ARDS に対する新たな治療方法とされている PMX-DHP と PMMA-SHF を施行することで、重度の敗血症性 ARDS を改善し得たので報告する。

### 【症例 1】

82 歳男性。発熱を主訴に近医で加療を受けるも改善せず、咳と食欲不振が続き当院に精査目的で入院となった。重症肺炎と診断され、内科的治療を行っていたが、第 8 病日に急激な血圧低下と呼吸障害に至り、ICU に転棟となった。血圧 60mmHg、CRP 17.2mg/dl、P/F 比 62、肺野は広範囲に透過性の亢進像を呈したため、敗血症性 ARDS と診断された。ICU 入室と同時に、PMX-DHP および PMMA-SHF を開始し、第 12 病日まで 14 時間の PMMA-SHF を連日施行した。CRP 0.9mg/dl と優位に低下傾向を示し、P/F 比の上昇、あきらかな循環動態の改善が得られた。また、肺野の改善に加え、尿量も増加傾向となり血液浄化から離脱した。

### 【症例 2】

49 歳男性。10 日間にわたり頭痛が続き、近医を受診したが改善せず、救急車にて当院に搬送となった。入院時 CRP 27.7mg/dl と高値であり、

MRI 画像で頸部硬膜外膿瘍と診断され抗生剤治療が開始された。第 2 病日に突然の意識障害と急激な呼吸障害に至り、ICU に転棟となった。血圧 70mmHg、P/F 比 51、肺野は広範囲に透過性の亢進像を呈していたため、敗血症性 ARDS と診断された。第 2、第 3 病日に PMX-DHP および PMMA-SHF を施行したことで、血圧は上昇しカテコラミンをテーパリングすることができた。さらに第 4 病日から第 15 病日まで 10 時間の PMMA-SHF を連日施行したことで、CRP 値、P/F 比および肺野の改善が得られ、第 16 病日に抜管となった。その後、間欠的に HD を施行したが離脱でき、第 74 病日に軽快退院となった。

### 【まとめ】

2 症例において PMX-DHP を施行したことで、有意な血圧の上昇がみられた。さらに、PMMA 膜を用いたことで炎症反応が低下傾向を示した。

### 【考察】

PMX-DHP/PMMA-SHF を使用した血液浄化療法により、炎症性サイトカインが除去されることで、血管透過性亢進、P/F 比および循環動態の改善が得られると示唆された。

### 【結語】

敗血症性 ARDS に対して、PMX-DHP と PMMA-SHF を用いた血液浄化療法は有効であった。